

Topics 県政トピック

■山梨「ワイン県」宣言！

国産ブドウだけで造られる日本ワインの生産量、ワイナリー数が日本一を誇る山梨県には、明治時代から約150年続くワイン造りの歴史と伝統があります。

平成22年には、本県特産のブドウ品種「甲州」が、OIV（国際ブドウ・ワイン機構）に日本固有の品種として初めて登録され、EUへ輸出するワインラベルに「Koshu」と表示できるようになりました。また、平成25年には日本のワイン産地として初めて、国税庁長官から地理的表示「山梨」の指定を受け、これにより「GI Yamanashi」と表示された山梨ワインは、原産地と品質を保證された付加価値の高いものとなっています。

このように山梨のワインに注目が集まる中、改めて山梨こそが名実ともに日本一のワイン産地であることを広くアピールし、山梨ワインのさらなる発展を図るため、昨年8月7日に「山梨『ワイン県』宣言」を行いました。この宣言を契機として、観光客の皆さんに山梨という地を選んで、足を運んでいただき、ワインや日本酒などの県産酒と一緒に、本県ならではの食とのマリアージュを楽しんだり、伝統工芸品などを手に取ったりしていただく機会が増えるよう、積極的に「ワイン県」山梨を発信していきます。



■山梨の新たなブランド魚「富士の介」出荷スタート

清らかな名水に恵まれた山梨県は、全国有数の淡水魚の生産地でもあります。令和元年10月、日本で初めてキングサーモンとニジマスを交配させて誕生した「富士の介」の出荷が始まりました。

味に定評のある希少なキングサーモンと、有数の生産地である山梨県で育てやすいニジマスを両親に持ち、それぞれの良さを併せ持つ富士の介は、きめ細かな身質、ほどよく乗った上品な脂、豊かなうま味の特徴です。

東京2020オリンピック・パラリンピック開催を前に出荷が始まったことからこの好機を生かし、山梨県の新たなブランド魚として県内外の多くの皆さんに、富士の介を口にいただけるよう、ブランド化に取り組んでいます。



■中部横断自動車道 静岡ー山梨間全線開通へ

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県甲斐市を經由して、長野県小諸市に至る延長約132kmの高速道路です。

静岡県と山梨県をつなぐ新清水JCTから双葉JCTの全線が、いよいよ本年開通する予定です。開通により、山梨県へのアクセスが一層向上し、物流の効率化やインバウンド観光の促進など、沿線地域をはじめとして、山梨県全体の発展につながると期待が寄せられています。

また、大規模災害が発生した際には、通行止めとなった道路の代替路として活用されたり、医療施設までの所要時間が短縮され、救命率の向上が見込まれたりするなど、命の道として地域住民の安全・安心の面で重要な役割を担います。

さらに山梨県と長野県をつなぐ区間では、環境影響評価や都市計画の手続きを進めるなど、早期の全線開通を目指していきます。



令和元年11月17日に開通した富沢IC～南部IC

(提供：国土交通省)



■リニアやまなしビジョンを推進！

2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業は、中間駅が設置される山梨県にとって、中央本線や中央自動車道の開通以来の歴史的な出来事であるとともに、県内経済にとって、今後またとない好機となります。

こうした中、山梨百年の計として、この千載一遇のチャンスを形にするため、リニア開業を機に、富を確実にこの山梨に呼び込み、県民生活の豊かさに直結されるための指針となる「やまなしリニアビジョン」を令和2年3月に策定しました。

このビジョンに基づき、豊かな自然環境に囲まれながら、大都市とアクセスしやすくなるという立地環境の強みを最大限に生かし、先端技術の実証実験を行う場として、山梨が世界に先駆けて新たな価値を創造する近未来の窓口となるよう、最先端企業などを山梨に誘致するための活動を強力に展開していきます。

リニアが開業すると

リニア中央新幹線が開業すると、甲府と東京都心が約25分で結ばれるようになり、また、中京圏・関西圏からの無理のない日帰り旅行も可能になります。さらに、主要な空港からの所要時間も大幅に短縮されることから、人と情報の交流密度が飛躍的に向上することが期待できます。

